

# げんき村の「じゅうねん油」が 日本エゴマ全国サミットで日本一に輝く

株式会社げんき村の「じゅうねん油」が「第十四回日本エゴマ全国サミット in 広島東城町」(以下サミット)で行われたエゴマ油コンテストにおいて、第1位に選ばれました。げんき村の斎藤幹子さんは「実の買い入れから、搾油、商品化までスタッフ全員の努力が認められて嬉しく思います」と受賞の喜びを話されました。

サミットは3月9日、10日に広島県で開催され、全国のエゴマ栽培者ら約180人が参加しました。

コンテストには、全国から17団体が出品し、色や香り、味などを競い、その中でげんき村のエゴマ油は、透明感や甘みなどが高く評価され受賞となりました。また、「実部門」でも2位を受賞しました。

只見町では「エゴマ」を「じゅうねん」と呼び、昔から栽培されていた貴重な郷土食材の一つです。これからも、ぼた餅や赤飯などの食材として、大事に後世に残したいものです。



## 地域おこし協力隊として Vol.113

只見町教育振興協力隊 はらなが まどか  
原永 円香



新しい年度が始まり、只見町に住んで3年目の春を迎えました。ただみ・モノとくらしのミュージアムでは、この2年間で4つの展覧会を開催し、現在は、7月開幕予定の5つ目の展覧会に向けて調査、準備を行なっているところです。今回は、この展覧会について少し書いてみようと思います。

展覧会名は『第3回企画展 雪国只見の知恵から生まれた着る民具』です(名称は変更になる可能性もありますが)。現在開催されている『第2回テーマ展 身につける民具』では、町で収集した民具の中から、“身につける”民具を集めて展示しています。展示している身につける民具は、布をはじめ、ワラやヒロロ(ミヤマカンスゲ)など、さまざまな素材で作られています。第3回企画展では、着る民具の中でも“布”で作られたものに絞って展示を行ないます。

展覧会内容は「糸づくり・布づくり」、「仕事着」「現代に生きる仕事着の技」の3つに分けることが出来ます。「現代に生きる仕事着の技」では、現在活動を行なっているふたつの団体の取材、紹介を行なう予定です。この原稿を書いている日には、紹介する予定の団体のひとつである“めいわ縫子さん”の活動にお邪魔しました。活動に関しての話を聞いたり、展覧会図録作成用の資料の借用などを行ないました。作られるユッコギなどの作品は、おしらせばんで告知し集められた、着物や反物を再利用しているものがほとんどです。集まった着物などを、それぞれが今後作る物を想像しながら選んでいる様子は、とても生き生きしていて、私もワクワクしました。

まだまだ準備途中の段階ではありますが、開幕したらぜひ見に来ていただきたいと思っています。展覧会会期は、現段階では7月20日～2025年1月までの予定です。